

高齢者IT講習の効果分析

小 川 晃 子

Effects of IT program for the Elderly

Akiko OGAWA

Resolving digital divide among the older generation and then ensuring them universal access to information is a new and important task in welfare information politics. However, it has not yet been verified what kind of politics is effective.

This paper examines the effects of IT program held for the elderly in Iwate Prefecture last year. The participants were participants of the IT program. The elderly participants were members of either the Iwate Senior Net or clubs for the elderly. A survey was done on them. Present results showed that the IT program may bring out interests of the elderly in IT which had not been expressed. It was also displayed that different types of programs yielded different effects.

These findings may serve as a new policy reference for future IT programs, which were held uniformly on a national wide scale.

1. はじめに

1990年代後半からの情報ネットワーク社会の進展は、新たな社会変容と課題をもたらしている。情報ネットワーク社会という用語は、インターネットに代表されるCMC(Computer Mediated Communication)ネットワークの展開と、それにより織り成される個人間のコミュニケーションによるネットワーク、すなわち社会的ネットワークとの二重の意味をもつ概念である¹⁾。CMCを利用することにより、従来の形態を超えて様々な人と交流できることは、「自己実現」や「サポートネットワーク」といった福祉情報化ともいえる領域の拡大を意味している。障害者や高齢者などの当事者の情報リテラシーを高め、情報発信を可能にすることは、福祉の質を変えていく契機ともなる²⁾。

しかし、ITの進展は早く、情報格差(digital divide)の問題も顕在化しつつある。インターネットの利用者の92.0%は50代以下の年代で、60代は7.4%、70代以上は僅か0.6%である³⁾。当事者の情報リテラシー

支援は、情報弱者の発生を抑え、情報システムへのユニバーサルアクセスを保障するという意味で、情報社会政策、また福祉情報政策の課題として、政策手法の開発が求められる領域である。

実際の施策の1つとして、平成12年度後半から自治省(現 総務省)が「日本新生のための新発展政策」として、情報通信技術(IT)講習推進特例交付金を設けた。これを受けて、全国550万人をめどに、インターネット使用に必要な基礎技能習得を目的とした12時間の講習を自治体で実施している。

岩手県においても、平成12年度は約3,400人の定員で実施された。うち2,055人は市町村が、845人は振興局が、年齢などの制約条件を設けずに実施した。残り500名は受講対象を障害者・高齢者に限定した研修で、岩手県障害福祉課が実施主体となって20名の障害者を、岩手県長寿社会課が実施主体となって480名の高齢者を対象として募集している。

原則として60歳以上を対象とする長寿社会課の講習は、岩手県長寿社会振興財団に委託し、岩手県老人ク

ラブ連合会と、ボランティア団体のいわてシニアネットワーク¹⁾の協力を得て県内各地で教室を設定した。この講習の主な特徴は、以下の4点である。

1点めは、いわてシニアネットが活動趣旨とする「高齢者の学びあい・支えあい」²⁾を活かすため、主催者が契約をした専門業者インストラクタ（20名の受講生に対し3名配置）以外に、ボランティアのサポートを配置している。場所や時間の制約により配置数は不定であるか、多い場合は1対1での教授となっている。

2点めは、小規模な教室の設置である。今回のIT講習では、受講生20名単位での集団受講が原則であった。従来、いわてシニアネットでは、高齢者個々人の理解度や都合に応じて進められるよう、サロンを設置していた。この特徴を活かし、20名の受講を4分割し、5名単位での「個別指導」形式を取りいれている。

3点めは、高齢者向けの独自テキスト³⁾使用である。いわてシニアネットの指導者と研究者でチームを構成し、高齢者がITを学ぶことを目的化するのではなく各自の生活で情報化の利便を得られるよう使用イメージを形成すること、及び操作技術を簡略化し自宅で再度操作する場合の最短マニュアルになることを意図して作成されている。

4点めは、IT講習受講後の人と人のつながりづくりの働きかけである。12時間の講習では、大半の高齢者が自宅でインターネットを独力利用という段階には到達できない。またITの進展は早く、陳腐化も早い。そこで、IT活用のためのサポートネットワーク形成を目指し、いわてシニアネットなど高齢者の団体か、地域のパソコン利用団体に加入するようすすめている。上記のサポート配置や、小規模受講、独自テキストも、すべてサポートネットワーク形成に資するために計画されたものである。

このように高齢者の情報格差是正を企図してIT講習が実施されているが、高齢者のIT研修が情報弱者の発生を抑え、情報システムへのユニバーサルアクセスを保障するという意味で効果があるか否かの検証は行われていない。

こうした背景を踏まえ、本研究は、高齢者のIT基礎講習の効果を年代差の観点から検証するとともに、シニアネットの特徴を活かした意図的な取組みについて高齢者の理解度や満足度からみた効果を検証することを目的とするものである。

2. 方法

(1) 被検者

平成12年度に国の「情報通信技術（IT）講習推進特例交付金」の助成を受けて岩手県で実施されたIT講習会のなかで、原則として満60歳以上を対象として、長寿社会課が主催し財団法人岩手県長寿社会振興財団に委託実施した481名の講習会における受講生を悉皆で対象とした。うち、3ヶ所・14教室の81名は個別受講、18ヶ所・20教室の400名は集団受講である。個別受講は、いわてシニアネットとカメラシアニアネットクラブ⁴⁾の主催である。集団受講のうち、いわてシニアネット主催は120名、岩手県老人クラブ連合会主催は280名である。

回収数は454名（回収率94.4%）で、年齢は64歳以下が20.9%、65～74歳が46.7%、75歳以上が15.4%である。性別は男性が68.3%、女性が18.9%である。

また、比較群として、市町村実施の一般講習受講生から、水沢地方振興局33名と久慈地方振興局71名、合計104名に調査協力を得た。このうち、60歳以上は15件であった。男性が24.0%、女性が71.2%である。

(2) 手続き

調査は、平成13年1月15日から3月31日に、IT講習完了時に教室で配布し、自記式で実施した。教室での回収を原則とし、一部郵送による回収を併用した。

(3) 質問票

高齢者講習、一般講習共通の質問項目を用いた。IT講習の認知経路、IT講習受講前のIT経験・学習意欲・不安感、IT講習に対する満足度・理解度、IT講習受講後のIT利用意向とその方法を設問した。IT講習に対する満足度は総合評価を含めて10項目を5段階尺度で、理解度は総合評価を含めて6項目を5段階尺度で測定した。

3. 結果

(1) 受講方法別にみた回答者の特性

回答者の性別・年代を表1に示す。

一般講習は女性が71.2%であるのに対し、高齢者講習は男性が68.3%である。高齢者講習全体に占める女性は18.8%で、50・60歳代では28.4%であるのに対し、70歳以上では11.4%で、高齢になるほど女性比率が低くなる傾向がある。

年代別には、一般講習は60歳未満が76.9%、60～74

歳が14.4%であるのに対し、高齢者講習は50代後半が2.2%、60～74歳が70.0%、75歳以上が15.4%である。

高齢者講習の実施は、5人単位のサロン形式で実施した個別受講と、20人単位の集団受講がある。個別は3箇所で開催しており、個別1はいわてシニアネット常設の事務室兼用のサロン、個別2は民間のパソコン教室の場所提供を受けいわてシニアネットが運営しているサロン、個別3はカメラシアニアネットが運営しているサロンである。集団は2方式あり、集団1はいわてシニアネットが募集・運営した6教室、集団2は岩手県老人クラブが募集・運営した14教室である。この14教室のうち5教室では、いわてシニアネット会員がボランティアでサポートを行っている。

性別構成を比較すると、個別1は女性が30.0%と多い。個別2と個別3、及び集団2は男性が4分の3近くを占めている。

年代構成を比較すると、個別1と個別3は、50～60歳代が7割を超えており、比較的若い年代層が多い。個別1は幅広い年代に分散しており、後期高齢者も20.0%である。これに対し、個別2は、70歳前半が20.0%とやや多い。後期高齢者の比率は、集団1が10.3%であるのに対し、集団2は17.0%とやや多い。

(2) 主観的認識にみる情報格差

1) 年齢差

高齢者講習受講者のなかでも、30歳程度の年齢幅がある。年齢別の受講前の主観的な認識は、表2に示す通りである。受講前のIT体験は有意差 ($p<0.001$) がみられた。60代においては、62.7%が何らかの体験をもっていたが、70代以上では54.0%であった。今回の高齢者講習の運用に、いわてシニアネットが関与していたことから、ITに関心が高い高齢層が参加したものと推測される。表4に示す通り、老人クラブ連合会が主催・運用した集団2においては、IT体験を事前にもつのは49.2%で、教室形態でIT体験に有意差 ($p<0.001$) があることからこの点は推測できる。

受講前のIT体験を内容別にみると、「職場で見聞き」体験が年齢による有意差 ($p<0.01$) があった。50代後半では40.0%が、60代前半では42.6%が体験しているのに対し、60代後半以上では16.1%である (表2)。表4に示す通り、「職場で見聞き」は若年層を含む一般講習と高齢者講習で有意な差 ($p<0.001$) がある。このことから、職場でのIT体験に幅広い年代で年齢差があることがわかる。

受講前の学習意向 ($p<0.01$) も、不安感 ($p<0.001$) も、有意差があった (表2)。年齢が高くなるほど、強い学習意向を示すものは少なくなり、不安感が高まる傾向がある。

受講後の利用に関する意識項目の年齢別結果は、表3に示す通りである。利用意向、不安感、パソコン利用の仲間づくり、パソコン入手意向、具体的利用イメージの有無の5項目において、すべて有意な差がある。強い利用意向は年代が上がるにつれて少なくなり、具体的な利用イメージも少なくなる傾向がある。それでも75歳以上の全受講者の38.5%は「是非利用したい」と強い利用意向を示しており、「どちらかといえば利用したい」まで含めると90.0%が利用意向を示している。

受講後の仲間づくりについて、「高齢者だけのサークル」を選択する比率は、年代が上がるるとともに高くなり、70代後半では41.4%である。シニアネットのような団体は、利用意向をもちながらとまどいがちな認識を示している後期高齢者の方が、前期高齢者よりもニーズが高いといえよう。

2) 性差

受講前のIT体験率、学習意向、講習前の不安感いずれも性別による有意差があった ($p<0.01$) (表3)。IT体験率は女性の方が高いが、講習前の強い不安感 は女性の方が示している。

受講時の満足度・理解度の、性別の平均値を図1・図2に示した。満足度は、「学習する内容のレベル」以外の全項目において女性が男性より高い。理解度は、「基本的な操作」や「文字入力」及び「インターネットのみかた」などの具体的技術項目では男性の方が高いが、「具体的な利用方法」や「総合的には」女性の方が高い。

受講後の利用に関する意識項目の性別結果は、表3に示す通りである。利用意向、不安感、パソコン利用の仲間づくり、パソコン入手意向、具体的利用イメージの有無の5項目において、すべて有意な差がある ($p<0.01$)。受講前と同様、女性の方が利用意向は高いが、不安感をもつ者も多い。

(3) 講習の実施方法による差

一般講習と高齢者講習を比較すると、講習に関する理解度は、「基本的操作」に関しては一般講習より高齢者講習の方が低い。「十分に理解できた」は一般講

習が43.3%であるのに対し、高齢者講習は25.6%で、有意な差 ($p<0.01$) がある。しかし、これ以外の項目と総合的な理解度では、有意な差はみられない。

また、講習への満足度は、「機器の設置」 ($p<0.5$)、「費用」 ($p<0.001$)、「ボランティアの支援」 ($p<0.001$) の3項目で、有意な差がある。「機器の設置」と「費用」は一般講習が、「ボランティアの支援」は高齢者講習が、満足度が高い。これ以外の項目と総合的な満足度では、有意な差はみられない。

表5に示す通り、受講後の利用意向は、一般講習受講生の方が高く、有意な差がある ($p<0.001$)。受講後の仲間づくりについても、有意な差がある ($p<0.001$) が、高齢者講習の方が「今回受講生のサークル」 (25.3%) と「高齢者だけのサークル」 (25.3%) の意向が高く、一般講習の方が「地元のパソコンサークル」 (42.3%) が多い。

次に、高齢者講習の教室形態による差をみる。表4に示す通り、IT講習前のIT体験は、実施方法による差があった ($p<0.001$)。個別1では95.0%が、個別2では74.3%が体験があり、全くの初心者ではない層が多く受講していることがわかる。講習前の学習意向や不安感には差がみられないが (表4)、講習受講後の利用意向とパソコン入手、及び仲間づくりの意向には有意な差がみられた (表5)。個別1と個別2の受講生では今後の利用意向が高く、「是非利用」が80.0%と54.3%である。また、個別受講は、「今回受講生でサークル」志向が強い。老人クラブ連合会主催の集団2では、「高齢者だけのサークル」が30.7%と多い。パソコン入手に関しては、「既にある」と「購入するつもり」の合計が、個別1では80.0%、個別3では63.1%と高く、個別2は45.7%、集団1は43.9%、集団2は38.3%となっている。

受講時の満足度・理解度の平均値は、図5・図6に示すように個別2が高く、個別3が低い傾向がみられる。総合的な満足度において、「十分満足」は個別2では80.0%で、個別1が65.0%、集団1が54.3%、集団2が51.9%、個別3が47.5%と続いており、教室形態による有意差がある ($p<0.001$)。

総合的な理解度において、「十分に理解」と「まあ理解」の合計値は、個別2が91.4%、集団2が74.2%、集団1が71.6%、個別1が70.0%、個別3が57.9%と続いており、教室形態による有意差がある ($p<0.5$)。

4. 考察

(1) 情報格差 (digital divide) 解消の効果

一般的なインターネット利用者に占める60歳以上の比率は8.0%である²⁾のに比較し、今回の一般講習受講者データでは、60歳以上が14.4%である。高齢者におけるインターネットの潜在的利用意向を、今回のIT基礎講習が顕在化したと推測される。

講習受講前のITにふれる体験は、一般講習と高齢者講習の受講生の比較、高齢者講習受講生における年代比較ともに、職場での体験有無で有意な差があった。産業の情報化が生活の情報化よりも進展している我が国においては、職域でのIT体験が情報格差の背景要因となっているといえよう。地域でのIT講習を、職域で体験できない層を対象として実施する意義を裏付けている。

受講後のIT活用意向も、年代が上がるにつれて少なくなるものの、後期高齢期の9割が今後の利用意向を示していることから、受講が利用の契機として効果をあげていると推測される。

情報格差という点では、年代差とともに、性別による格差もある。インターネット利用者に占める女性の比率は27.9%で、高齢になるほど女性比率は低くなる傾向があり、60代では12.1%、70代以上では7.7%である³⁾。今回の一般講習受講者では女性のほうが多く、高齢者講習全体に占める比率は18.8%であったが、70歳以上でも11.4%であった。年代差同様、潜在的利用意向層を顕在化する上で効果があったと推測される。

性別にみると、女性の方が不安感は強いものの、利用意向は男性よりも示している。女性の不安感を払拭し、生活場面での利用に具体的に結び付けるという点でも、今回講習は情報格差解消に有効であるといえよう。

(2) 高齢者講習の特徴評価

岩手県長寿社会課主催の高齢者対象講習の特徴に沿って評価結果をみる。1点目のボランティアのサポート配置については、ボランティア配置が1人以上いる教室に限定すると、63.0%が「十分に満足」し、21.8%が「まあ満足」をしており、評価は高い。

2点目の小規模教室設置については、3ヶ所の教室差が大きく、個別2受講生の満足度が高い。個別2は民間のパソコン教室の社会貢献として、場所と指導者

が提供されており、これにシニアネットのサポートが加わった形で運営されている。IT教育専門家のノウハウと、ボランティアの利点が複合的に活かされ、それが評価されている可能性が高い。また、個別受講者は、受講後に、ITに関する高齢者のネットワーク形成への意欲が高い。

3点めの独自テキスト作成については、テキストに関する満足度では、高齢者講習と一般講習の差はみられなかった。しかし、講習受講後のIT活用の具体的なイメージ形成が高齢者講習で高いことから、テキスト作成の狙いが達成されているといえよう。

4点めのIT活用のサポートネットワーク形成については、高齢者講習の方が一般講習に比較し、今回受講生や高齢者に限定したネットワーク形成の意向が強い。シニアネットの特徴を活かした意図的な取組みは、ボランティアや個別受講、独自テキストなどが複合的に働き、IT活用のネットワーク形成を促進している。以上を総合的にみて、今回講習は、高齢者のインターネット利用を顕在化し、IT活用のサポートネットワーク形成に寄与しているといえよう。

IT講習の成果として、高齢者のIT活用が進展することは、高齢者の自己選択や自己決定を促進し、利用者本位の福祉に近づく方向を示唆している。

本研究では、岩手県において独自方式で展開された高齢者IT講習を、一般のIT講習と比較することにより、高齢者のIT講習の効果を測定する貴重なデータを得ることができた。今後においては、受講に年齢制限のない講習を高齢者が受講した場合の評価と比較することにより、高齢者のサポートネットワーク形成を意図したIT講習展開の意義を、さらに検討していく必要がある。また、シニアネットなど、サポートネットワーク形成を意図した団体の関与について、その効果を多様な角度から検証することも課題である。さらに、高齢者のIT活用と自己選択・自己決定力の関連を把握することにより、利用者本位の福祉をすすめるために必要な施策検討も残された課題である。

調査にご協力をいただきました岩手県情報科学課（現 情報システム課）、久慈地方振興局、水沢地方振興局、岩手県長寿社会課、及び岩手県長寿社会振興財団と、研修の運営にあたられた岩手県老人クラブ連合会、いわてシニアネット・カメラシアニアネットクラブの皆様、に、深謝申し上げます。

- 1) 吉田 純,2000,『インターネット空間の社会学—情報ネットワーク』世界思想社.
- 2) 高橋紘士,1997,「福祉情報化の展望と課題」岡本民夫・高橋紘士他編,『福祉情報化入門』有斐閣,1-9.
- 3) 日本インターネット協会,2000,『インターネット白書2000』,インプレス.
- 4) 岩手県長寿社会振興財団主催の高齢者大学で小川晃子が実施した「高齢者の生きがい調査」が契機となり、高齢者大学卒業生を母体として2000年9月8日設立。会長は岩手県立大学助教授湯澤脩氏。2001年9月現在、会員309名。
- 5) 「シニアがシニアの教師」という方法は、全米220ヶ所に学習センターを設置している米国シニアネットで確立された方法を参考とし、いわてシニアネットでは相互扶助による社会貢献を趣旨としている。
- 6) いわて人材・活動情報ネットワーク調査研究プロジェクト編,2000,『シニアのパソコン入門』いわてシニアネット.
- 7) 岩手県大船渡市を活動エリアとしている。会員数は、62（男37、女25）名。主催者は、金野勲氏。岩手県内全域を活動エリアとする「いわてシニアネット」設立以前から、岩手県内には「カメラシアニアネットクラブ」と、「シニアネットリアス」（釜石市を活動エリアとする）という2つの草の根シニアネットが存在した。

表 1. 回答者の基本属性

		一般講習 (n=104)	高齢者講習 (n=454)	個別 1 (n= 20)	個別 2 (n= 35)	個別 3 (n= 19)	集団 1 いわてシニア ネット (n= 116)	集団 2 老人クラブ (n= 264)
性別	男	25(24.0)	310(68.3)	13(65.0)	26(74.3)	14(73.7)	59(50.9)	198(75.0)
	女	74(71.2)	86(18.8)	6(30.0)	8(22.9)	4(21.1)	31(26.7)	37(14.0)
年代	29歳以下	5(5.8)	—	—	—	—	—	—
	30～39歳	27(26.0)	—	—	—	—	—	—
	40～49歳	28(26.9)	—	—	—	—	—	—
	50～59歳	20(19.2)	10(2.2)	—	—	2(10.5)	2(1.7)	6(2.3)
	60～64歳	7(6.7)	85(18.7)	7(35.0)	9(25.7)	9(47.4)	23(19.8)	37(14.0)
	65～69歳	4(3.8)	127(28.0)	7(35.0)	10(28.6)	3(15.8)	33(28.4)	74(28.0)
	70～74歳	4(3.8)	106(23.3)	2(10.0)	7(20.0)	3(15.8)	21(18.1)	73(27.7)
	75～79歳	—	58(12.8)	2(10.0)	6(17.1)	2(10.5)	12(10.3)	36(13.6)
	80歳以上	—	12(2.6)	2(10.0)	1(2.9)	—	—	9(3.4)

無回答は、表側・表頭とも表記していない。() 外は人数、() 内は縦の百分比。

表 2. 性別・年代別の受講後のIT利用意向

		性別		年齢					
		男性 (n=310)	女性 (n= 86)	～59 (n=10)	60～64 (n=85)	65～69 (n=127)	70～74 (n=106)	75～79 (n=58)	80～ (n=12)
IT 体験	あった	181(58.4%)	53(61.6)	5(50.0)	54(63.5)	79(62.2)	59(55.7)	30(51.7)	6(50.0)
	なかった	126(40.6)	33(38.4)	5(50.0)	28(32.9)	48(37.8)	46(43.4)	28(48.3)	6(50.0)
		$\chi^2 = 49.99$ df=4 p<.001		$\chi^2 = 48.07$ df=12 p<.001					
IT 体験 の 内 容		(n= 181)	(n= 53)	(n= 5)	(n= 54)	(n= 79)	(n= 59)	(n= 30)	(n= 6)
	家族の利用を見聞している	57(31.5)	25(47.2)	1(20.0)	21(38.9)	23(29.1)	24(40.7)	9(30.0)	2(33.3)
		$\chi^2 = 6.14$ df=2 p<.05		$\chi^2 = 3.59$ df=6					
	職場で見聞している	46(25.4)	7(13.2)	2(40.0)	23(42.6)	14(17.7)	7(11.9)	5(16.7)	2(33.3)
		$\chi^2 = 4.12$ df=2		$\chi^2 = 20.25$ df=6 p<.01					
	パソコン教室に通った	43(23.8)	12(22.6)	2(40.0)	12(22.2)	23(29.1)	13(22.0)	5(16.7)	2(33.3)
		$\chi^2 = 1.41$ df=2		$\chi^2 = 3.17$ df=6					
学 習 意 向	公民館など公的な場所 にあるパソコンで体験	24(13.3)	8(15.1)	—	6(11.1)	13(16.5)	8(13.6)	5(16.7)	—
		$\chi^2 = 0.43$ df=2		$\chi^2 = 3.25$ df=6					
	NTTや郵便局などで体験	15(8.3)	4(7.5)	—	5(9.3)	6(7.6)	5(8.5)	3(10.0)	—
		$\chi^2 = 0.90$ df=2		$\chi^2 = 2.28$ df=6					
講 習 前 不 安 感	パソコン販売店で体験	7(3.9)	1(1.9)	—	1(1.9)	1(1.3)	3(5.1)	3(10.0)	—
		$\chi^2 = 1.61$ df=2		$\chi^2 = 8.21$ df=6					
	是非学みたいと考えていた	134(43.2)	35(40.7)	7(70.0)	42(49.4)	57(44.9)	45(42.5)	18(31.0)	3(25.0)
	機会があれば学みたい と考えていた	146(47.1)	44(51.2)	3(30.0)	33(38.8)	61(48.0)	47(44.3)	36(62.1)	8(66.7)
	とちらともいえない	7(2.3)	—	—	1(1.2)	3(2.4)	1(0.9)	2(3.4)	—
	学みたいとは考えてい なかった	15(4.8)	6(7.0)	—	4(4.7)	5(3.9)	9(8.5)	2(3.4)	1(8.3)
		$\chi^2 = 33.56$ df=8 p<.001		$\chi^2 = 48.37$ df=24 p<.01					
講 習 前 不 安 感	とても強い不安感があ った	51(16.5)	33(38.4)	1(10.0)	19(22.4)	23(18.1)	26(24.5)	16(27.6)	2(16.7)
	とちらかといえはあ った	162(52.3)	34(39.5)	8(80.0)	38(44.7)	58(45.7)	52(49.1)	30(51.7)	9(75.0)
	とちらかといえはな かった	62(20.0)	9(10.5)	1(10.0)	12(14.1)	31(24.4)	16(15.1)	11(19.0)	1(8.3)
	全く不安感ではな かった	31(10.0)	10(11.6)	—	13(15.3)	15(11.8)	10(9.4)	1(1.7)	—
		$\chi^2 = 70.81$ df=8 p<.001		$\chi^2 = 63.16$ df=24 p<.001					

無回答は、表側・表頭とも表記していない。

() 外は人数、() 内は縦の百分比。 n はことわりのない場合は表頭 () 内。

表 3. 性別・年代別の受講後のIT利用意向

		性別		年齢					
		男性 (n=310)	女性 (n= 86)	～59 (n=10)	60～64 (n=85)	65～69 (n=127)	70～74 (n=106)	75～79 (n=58)	80～ (n=12)
利用意向	せひ利用	127(41.0%)	43(50.0)	6(60.0)	42(49.4)	57(44.9)	39(36.8)	20(34.5)	7(58.3)
	どちらかといえは利用	148(47.7)	35(40.7)	3(30.0)	37(43.5)	54(42.5)	51(48.1)	32(55.2)	4(33.3)
	どちらともいえない	26(8.4)	5(5.8)	—	4(4.7)	13(10.2)	11(10.4)	5(8.6)	—
	どちらかといえは利用しない	3(1.0)	2(2.3)	—	—	1(0.8)	2(1.9)	1(1.7)	—
	全く利用しない	—	—	—	—	—	—	—	—
		$\chi^2=101.86$ df=8 p<.001		$\chi^2=95.14$ df=24 p<.001					
不安感	とても強い	10(3.2)	5(5.8)	—	3(3.5)	7(5.5)	4(3.8)	1(1.7)	2(16.7)
	どちらかといえはある	148(47.7)	44(51.2)	5(50.0)	46(54.1)	50(39.4)	52(49.1)	34(58.6)	5(41.7)
	どちらかといえはない	112(36.1)	27(31.4)	2(20.0)	24(28.2)	53(41.7)	34(32.1)	21(36.2)	4(33.3)
	全くない	34(11.0)	9(10.5)	2(20.0)	10(11.8)	15(11.8)	13(12.3)	2(3.4)	—
		$\chi^2=103.96$ df=85 p<.001		$\chi^2=103.34$ df=24 p<.001					
仲間づくり	今回受講生でサークル	82(26.5)	21(24.4)	2(20.0)	29(34.1)	33(26.0)	24(22.6)	15(25.9)	2(16.7)
	地元パソコンサークル	94(30.3)	22(25.6)	6(60.0)	31(36.5)	37(29.1)	26(24.5)	15(25.9)	3(25.0)
	高齢者向けのサークル	83(26.8)	18(20.9)	1(10.0)	10(11.8)	26(20.5)	38(35.8)	24(41.4)	4(33.3)
	その他の仲間づくり	13(4.2)	5(5.8)	—	2(2.4)	12(9.4)	3(2.8)	—	1(8.3)
	仲間づくり考えない	27(8.7)	14(16.3)	1(10.0)	11(12.9)	14(11.0)	10(9.4)	2(3.4)	1(8.3)
		$\chi^2=40.38$ df=10 p<.001		$\chi^2=92.63$ df=30 p<.001					
パソコン入手	既に家庭にある	92(29.7)	46(53.5)	4(40.0)	37(43.5)	45(35.4)	31(29.2)	21(36.2)	1(8.3)
	購入するつもり	38(12.3)	4(4.7)	1(10.0)	5(5.9)	20(15.7)	10(9.4)	5(8.6)	2(16.7)
	様子をみて購入検討	150(48.4)	25(29.1)	4(40.0)	34(40.0)	51(40.2)	55(51.9)	25(43.1)	7(58.3)
	中古品をもらうつもり	13(4.2)	3(3.5)	—	3(3.5)	5(3.9)	4(3.8)	3(5.2)	1(8.3)
	その他の入手方法	2(0.6)	1(1.2)	—	1(1.2)	1(0.8)	—	1(1.7)	—
		$\chi^2=66.37$ df=12 p<.001		$\chi^2=86.20$ df=36 p<.001					
具体的利用	講習前から考えていた	42(13.5)	19(22.1)	2(20.0)	15(17.6)	25(19.7)	13(12.3)	3(5.2)	2(16.7)
	講習でイメージしてきた	123(39.7)	25(29.1)	5(50.0)	34(40.0)	44(34.6)	41(38.7)	21(36.2)	5(41.7)
	また漠然としている	129(41.6)	37(43.0)	3(30.0)	32(37.6)	54(42.5)	46(43.4)	31(53.4)	3(25.0)
	その他	3(1.0)	1(1.2)	—	2(2.4)	—	1(0.9)	1(1.7)	—
		$\chi^2=46.04$ df=8 p<.001		$\chi^2=75.94$ df=24 p<.001					

無回答は、表側・表頭とも表記していない。

() 外は人数、() 内は縦の百分比。

表 4. 講習別・教室形態別の受講前のIT経験

		一般 講習 (n=104)	高齢者 講習 (n=454)	個別 1 (n= 20)	個別 2 (n= 35)	個別 3 (n= 19)	集団 1 いわてシニア ネット (n= 116)	集団 2 老人クラブ (n= 264)
IT 体 験	あった	73(70.2%)	264(58.1)	19(95.0)	26(74.3)	10(52.6)	79(68.1)	130(49.2)
	なかった	30(28.8)	177(39.0)	1(5.0)	9(25.7)	8(42.1)	29(25.0)	130(49.2)
		$\chi^2=5.60$ df=2		$\chi^2=42.64$ df=8 p<.001				
IT 体 験 の 内 容		(n= 73)	(n=264)	(n= 19)	(n=26)	(n=10)	(n=79)	(n=130)
	家族の利用を見聞きしてい る	24(32.9)	89(33.7)	7(36.8)	4(15.4)	2(20.0)	25(31.6)	51(39.2)
		$\chi^2=0.02$ df=1		$\chi^2=6.76$ df=4				
	職場で見聞きしている	36(49.3)	58(22.0)	5(26.3)	4(15.4)	6(60.0)	9(11.4)	34(26.2)
		$\chi^2=21.26$ df=1 p<.001		$\chi^2=15.79$ df=4 p<.01				
	パソコン教室に通った	7(9.6)	65(24.6)	8(42.1)	11(42.3)	—	20(25.3)	26(20.0)
		$\chi^2=7.69$ df=1 p<.01		$\chi^2=12.30$ df=4 p<.05				
	公民館など公的な場所にあ るパソコンで体験	12(16.4)	35(13.3)	1(5.3)	4(15.4)	—	9(11.4)	21(16.2)
		$\chi^2=0.48$ df=1		$\chi^2=3.87$ df=4				
	NTTや郵便局などで体験	5(6.8)	20(7.6)	2(10.5)	4(15.4)	1(10.0)	5(6.3)	8(6.2)
		$\chi^2=0.04$ df=1		$\chi^2=3.14$ df=4				
	パソコン販売店で体験	10(13.7)	8(3.0)	—	—	1(10.0)	2(2.5)	5(3.8)
		$\chi^2=12.87$ df=1 p<.001		$\chi^2=3.42$ df=4				
学 習 意 向	是非学びたいと考えていた	57(54.8)	187(41.2)	12(60.0)	21(60.0)	8(42.1)	50(43.1)	96(36.4)
	機会があれば学びたいと考 えていた	40(38.5)	216(47.6)	6(30.0)	12(34.3)	9(47.4)	50(43.1)	139(52.7)
	どちらともいえない	1(1.0)	7(1.5)	—	—	—	1(0.9)	6(2.3)
	学びたいとは考えていなか った	1(1.0)	25(5.5)	2(10.0)	1(2.9)	1(5.3)	5(4.3)	16(6.1)
		$\chi^2= 9.15$ df=4		$\chi^2=22.85$ df=16				
講 習 前 不 安 感	とても強い不安感があった	28(26.9)	102(22.5)	5(25.0)	5(14.3)	4(21.1)	27(23.3)	61(23.1)
	どちらかといえはあった	49(47.1)	215(47.4)	10(50.0)	15(42.9)	10(52.6)	53(45.7)	127(48.1)
	どちらかといえはなかった	16(15.4)	78(17.2)	5(25.0)	10(28.6)	2(10.5)	17(14.7)	44(16.7)
	全く不安感は無かった	10(9.6)	45(9.9)	—	5(14.3)	2(10.5)	11(9.5)	27(10.2)
		$\chi^2=2.31$ df=4		$\chi^2=17.29$ df=16				

無回答は、表側・表頭とも表記していない。

() 外は人数、() 内は縦の百分比。

n はことわりのない場合は表頭 () 内。

表 5. 講習別・教室形態別の受講後のIT利用意向

		一般 講習 (n=104)	高齢者 講習 (n=454)	個別 1 (n= 20)	個別 2 (n= 35)	個別 3 (n= 19)	集団 1 いわてシニア ネット (n= 116)	集団 2 老人クラブ (n= 264)
利用 意 向	せひ利用	70(67.3%)	186(41.0)	16(80.0)	19(54.3)	7(36.8)	45(38.8)	99(37.5)
	どちらかといえば利用	32(30.8)	200(44.1)	4(20.0)	14(40.0)	9(47.4)	49(42.2)	124(47.0)
	どちらともいえない	2(1.9)	36(7.9)	—	2(5.7)	—	8(6.9)	26(9.8)
	どちらかといえは 利用しない	—	5(1.1)	—	—	1(5.3)	—	4(1.5)
	全く利用しない	—	—	—	—	—	—	—
		$\chi^2=28.20$ df=4 p<.001		$\chi^2=35.97$ df=16 p<.01				
不 安 感	とても強い	5(4.8)	19(4.2)	1(5.0)	—	2(10.5)	2(1.7)	14(5.3)
	どちらかといえはある	54(51.9)	215(47.4)	7(35.0)	16(45.7)	7(36.8)	57(49.1)	128(48.5)
	どちらかといえはない	35(33.7)	146(32.2)	10(50.0)	15(42.9)	6(31.6)	35(30.2)	80(30.3)
	全くない	10(9.6)	47(10.4)	2(10.0)	4(11.4)	2(10.5)	8(6.9)	31(11.7)
		$\chi^2= 6.73$ df= 4		$\chi^2= 25.23$ df=16				
仲 間 づ く り	今回受講生でサークル	16(15.4)	115(25.3)	7(35.0)	12(34.3)	6(31.6)	28(24.1)	62(23.5)
	地元のパソコンサークル	44(42.3)	129(28.4)	7(35.0)	8(22.9)	7(36.8)	30(25.9)	77(29.2)
	高齢者だけのサークル	8(7.7)	115(25.3)	3(15.0)	9(25.7)	3(15.8)	19(16.4)	81(30.7)
	その他の仲間づくり	3(2.9)	21(4.6)	2(10.0)	3(8.6)	—	11(9.5)	5(1.9)
	仲間づくりは考えていない	26(25.0)	43(9.5)	—	1(2.9)	3(15.8)	15(12.9)	24(9.1)
		$\chi^2=37.87$ df=5 p<.001		$\chi^2=36.74$ df=20 p<.05				
パ ソ コ ン 入 手	既に家庭にある	50(48.1)	149(32.8)	14(70.0)	13(37.1)	10(52.6)	41(35.3)	71(26.9)
	購入するつもり	6(5.8)	47(10.4)	2(10.0)	3(8.6)	2(10.5)	10(8.6)	30(11.4)
	様子を見て購入検討	39(37.5)	198(43.6)	4(20.0)	15(42.9)	4(21.1)	48(41.4)	127(48.1)
	中古品をもらうつもり	1(1.0)	19(4.2)	—	2(5.7)	—	2(1.7)	15(5.7)
	その他の入手方法	1(1.0)	3(0.7)	—	—	1(5.3)	1(0.9)	1(0.4)
		$\chi^2=14.44$ df=6 p<.05		$\chi^2=43.86$ df=24 p<.01				
具 体 的 利 用	講習前から考えていた	18(17.3)	67(14.8)	4(20.0)	7(20.0)	4(21.1)	19(16.4)	33(12.5)
	講習でイメージできた	32(30.8)	169(37.2)	7(35.0)	13(37.1)	4(21.1)	38(32.8)	107(40.5)
	まだ漠然としている	50(48.1)	180(39.6)	9(45.0)	12(34.3)	10(52.6)	45(38.8)	104(39.4)
	その他	2(1.9)	6(1.3)	—	1(2.9)	1(5.3)	2(1.7)	2(0.8)
		$\chi^2=6.66$ df=4		$\chi^2=15.19$ df=16				

無回答は、表側・表頭とも表記していない。
() 外は人数、() 内は縦の百分比。

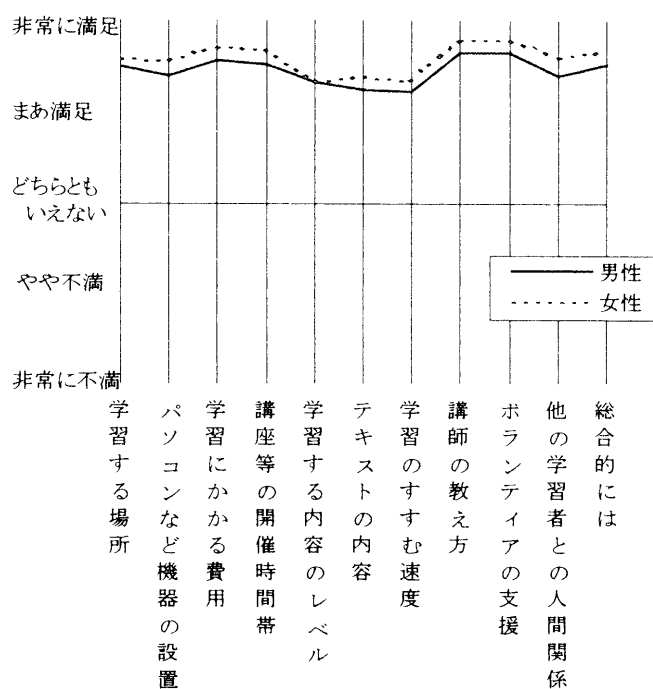


図 1. 満足度の各項目の平均値－性別－

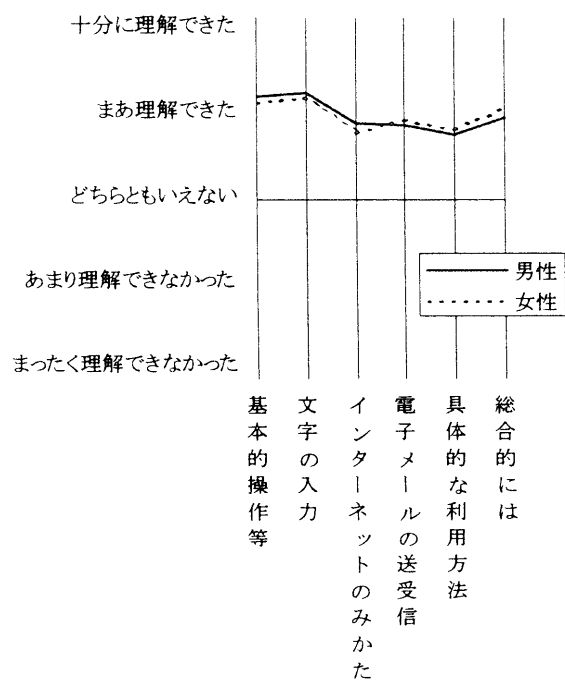


図 2. 理解度の各項目の平均値－性別－

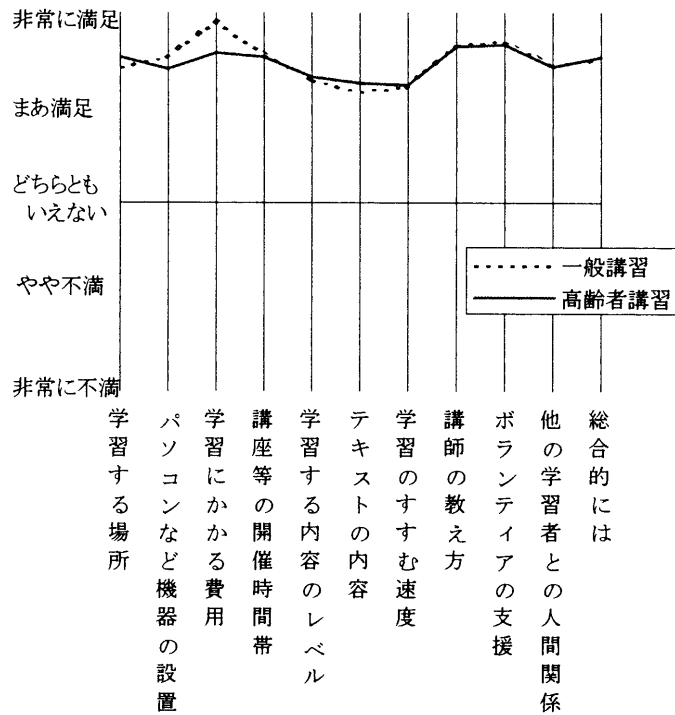


図3. 満足度の各項目平均値－講習別－

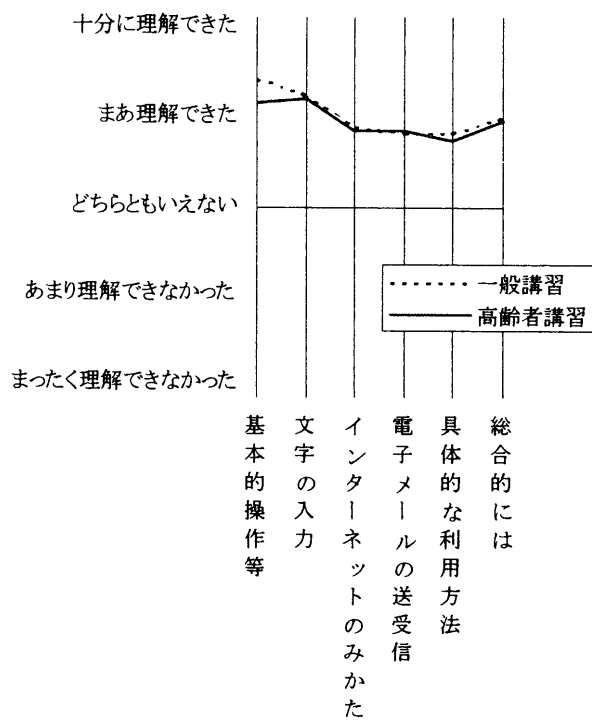


図4. 理解度の各項目平均値－講習別－

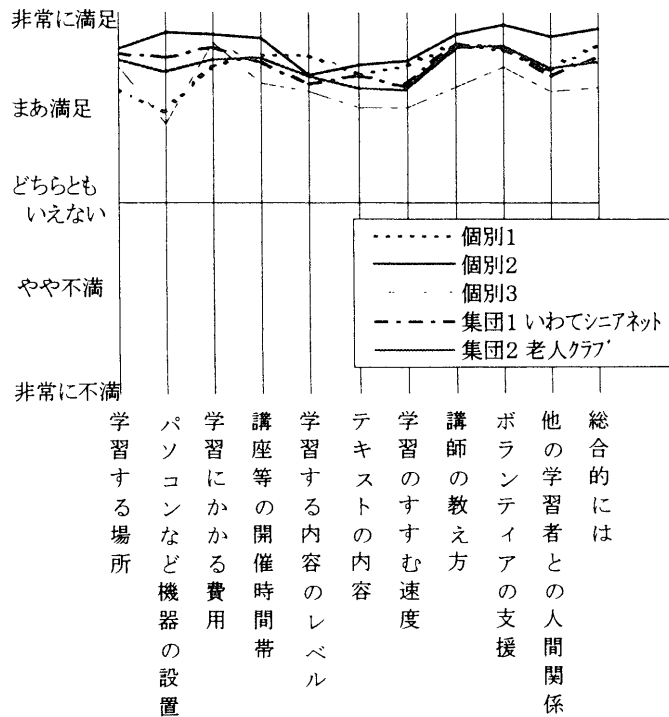


図 5. 満足度の各項目平均値－教室形態別－

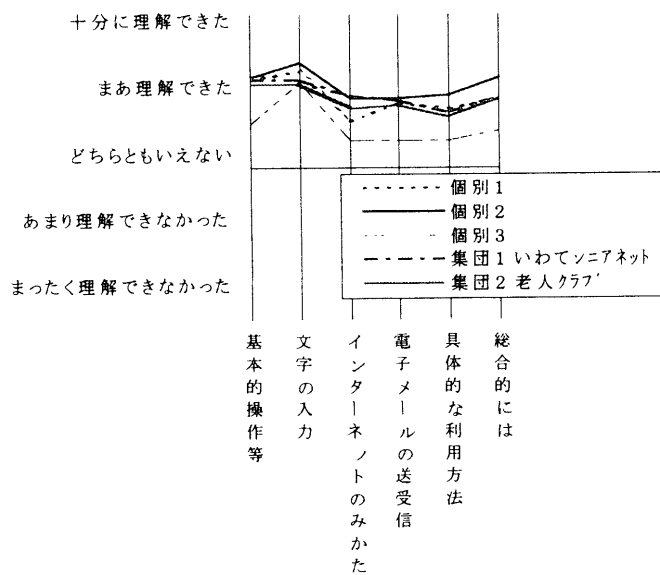


図 6. 理解度の各項目平均値－教室形態別－